

平成27年度 第5回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成28年2月1日 午後2時00分～5時00分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎7階 南71会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部商学科教授 博士]
服部 正雄 [元トヨタ生活協同組合 特別顧問]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
河原 郁子 [とよた下町おかみさん会 平成24年度会長]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
杉田 雅子 [株式会社 杉田組 ブルーベリー事業部取締役]

〈事務局〉

寺澤 好之 [豊田市産業部副部長]
三浦 浩 [豊田市商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課担当長]
鳶 和典 [豊田市商業観光課主査]
成瀬 愛 [豊田市商業観光課主事]

【欠席者】 浅井 良隆 [コンサルティングオフィス アット・ドリーム 代表]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
原田 裕保 [豊田市産業部長]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 副部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) ソーシャルビジネス支援事業の特例措置について
 - (2) 足助地区移動販売事業
 - (3) 宅配事業を中心とした高齢者支援システム（稲武システム）の構築
 - (4) 第8次総合計画に向けた豊田市の商業活性化の考え方について
- 5 その他
第7回商業振興委員会（3/14）開始時間の変更について
- 6 連絡事項
平成27年度 商業振興委員会開催予定（案）

【会議録（要約）】

- 1 副部長あいさつ
産業部副部長よりあいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局より説明

3 委員長あいさつ

委員長よりあいさつ

4 報告事項

(1) ソーシャルビジネス支援事業の特例措置について
事務局から資料について説明

【主な質疑応答】

委員

- ・いずれも採算に向けては厳しい事業である。
- ・以前の事業をどのように見直していくのかを聞きたい。特例措置で1年間延長して補助するだけの意味がある事業なのか。

委員

- ・補助がなくても継続していかねばならない。
- ・地域住民全体で利用して、この事業を支えていく必要がある。

委員

- ・来年度以降も補助金がなければ継続できないのでは。
- ・過疎地において、買い物弱者向けの事業は必要。
- ・できるだけ採算がとれる仕組みの中で補助できればと思う。

委員

- ・採算をとるのは厳しいが、地域の利便性を考えると継続していく必要もある。

委員

- ・大きな地区であれば、採算が取れやすいと思うが、足助・稲武のような小さな地区で採算をとるのは難しい。
- ・人口減少や高齢化が進む中で、買い物弱者をターゲットとした事業は地域のために継続してほしい。

委員

- ・この事業は、専門家がチェックしていくべき。

事務局

- ・単なる延命措置とならないよう、行政、地域、事業者それぞれがやるべきことを全てやる。その上で判断していただきたい。

(2) 足助地区移動販売事業

㈱ヤオミ、足助商工会より説明

【主な質疑応答】

委員

- ・補助金がなくなっても、事業を継続できるのか。

足助商工会

- ・移動販売のエリアの拡大や人件費削減を検討しているので、採算は合う見込み。

委員

- ・現在の販売エリアは全体のどのくらいか。

足助商工会

- ・足助には、68自治区ある。現在は、その内、販売の希望している33自治区を回っている。平成28年度は、停留所が10増える見込み。エリアが増えると人件費がかさむので、その点は調整したい。

ヤオミ

- ・交通手段もなく、この事業を頼りにしている方がいる。打ち切ることはできない。

委員

- ・残りの自治区にも積極的に声をかけ、エリアを拡大していただきたい。

委員

- ・事業スキームを考える際には、細かいマーケティングサービスについて入り込んで考えると良い。例えば、日常的なものと非日常的なものを組み合わせるなど。
- ・地域の声を聞いて、考えると良い。

委員

- ・採算をとるためには、利益を伸ばしつつ、経費は横ばいに維持しなければならない。

(3) 宅配事業を中心とした高齢者支援システム（稲武システム）の構築
稲武商工会より説明

【主な質疑応答】

委員

- ・事業の継続について、地域からの要望はあるか

稲武商工会

- ・今の利用者からだけでなく、今利用していなくても今後必要になるという声がある。

委員

- ・利用者や売上をどのように伸ばすのか。

稲武商工会

- ・店主の高齢化等で、自社での配達が増える店の分の配達を請け負う。
- ・アルバイトで注文から配達まで行う等、仕組みを簡略化する。

委員

- ・今後も利用が増える可能性があるのか。

稲武商工会

- ・現在の利用者には、週1強のペースで利用していただいている。割引や特売など広告の方法も工夫して利用者数、利用頻度を増やしていく。

委員

- ・この事業に頼っている住民はたくさんいる。事業が継続されるために、地域全体で支えていかなければいけない。
- ・地元産品のお中元、お歳暮カタログは、事業者が負担しても作っていくべき。

委員

- ・定着しつつあり、今後さらに必要になってくる。利用者にもよい事業となるよう努力していただきたい。

委員

- ・買い物弱者だけではなく、地域全体で支えていけると良い。

委員

- ・再来年度から補助金がなくなっても、継続できるか。

稲武商工会

- ・人件費、印刷製本費を削減していく必要がある。
- ・規模を縮小してでも、継続していかなければならない。

委員

- ・高齢社会で必要な事業である。ただ、採算が合わないと続けていくことができないため、事業者の協力体制を整え、事業を継続していただきたい。

————— 申請者退席 審議 —————

委員

- ・いずれの事業も採算をとるのは難しいが、地域にとって今やめるわけにはいかない事業であるので実行せざるを得ない。
- ・この事業を支援する意義は商業側、消費者側の2点から。商業振興の考え方だけでは限界。

委員

- ・特例措置で一年間延長した後の継続の方法を検討していかなければならない。

委員

- ・稲武については、地元の事業者を守るためにも地元商店街の強化とセットで行わないと、1年後にまた同じ議論になるのでは。

委員

- ・中小企業診断士を入れて、事業をチェックしていただきたい。

まとめ

- ・足助、稲武とも採算性の面よりも、事業中止による社会的影響の大きさを考慮した上で、従来の採点方式による評価を止めて、協議により事業継続を容認した。

(4)第8次総合計画に向けた豊田市の商業活性化の考え方について 事務局より説明

【主な質疑応答】

委員

- ・25歳以上の転出が多い。いかにこの層が豊田市に住み続けるようにするかが課題。
- ・日用品を市内で買い物をしてもらえるようにしなければいけない。

委員

- ・人口流出に関しては、宅地を増やさないとどうにもならない。
- ・土地区画整理事業に対して、商業環境をきちんと組み込んだ土地利用の施策を商業振興委員会で考えていく認識でいた。

事務局

- ・今回は、施策方針を固めていきたい。それを踏まえて、総合的な施策の中に商業の考え方についても組み込んでいくように土地利用の部局と協議していく。

事務局

- ・次回の委員会で、例えば、人口は多いが商業が衰退している郊外や、中山間地域に、ある程度の緩和をしながら商業環境を整えていく等の施策について議論いただきたい。今回は、その前段として、基本的な施策方針についてご意見いただきたい。
- ・施策方針の中で、「利便性が高く、安全・安心に満足感のある生活ができる商業環境の整備」というのがある。現在、若者の転出が多い点が課題であるが、豊田市に住み続けたいと思える商業環境を整備したいという意味合い。

委員

- ・「満足感のある生活ができる地域」というのは、商業だけでなく、病院や公共施設が揃っている地域であると思う。

委員

- ・人口の流出を食い止めないといけない。
- ・最寄品の吸引力を高めることについては問題ない。

委員

- ・施策方針にある「利便性が高く、安全・安心に満足感のある生活ができる商業環境の整備」が住民にとっては、一番大切である。

委員

- ・都市間競争、階層性の観点も見ていただきたい。